

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|--|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名) 保育者・教師論 | 授業の種類 (講義・演習・実習) | 授業担当者 柳田 真理子 | 当該科目における実務経験 保育士 |
| 授業の回数 8回 | 時間数 (単位数) 16時間 (2単位) | 幼稚園教諭専攻科 前期 | 必修・選択 必修 |
| <p>[科目概要・到達目標]</p> <p>・保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的なあり方、保育者の倫理観、乳幼児の基礎的知識・技能、保護者支援の方法など、具体的な保育方法の学習と共に、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見解を持つように学修を行う。</p> | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1・保育の意味 (こどもを育てる2つのコースと制度としての保育) ①意図的保育・教育と無意識的保育・教育 ②保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化。</p> <p>2・保育の現状理解 (社会の変化と保育ニーズ) 現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題・行政の問題・保育現場の問題を考察する。</p> <p>3・子ども観、保育観の重要性①保育者の子どもの見方、保育観が重要であることを学ぶ</p> <p>4・子ども観、保育観の重要性②西欧の思想を学び、現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質とあり方を考察する。(ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等)</p> <p>5・子ども観、保育観の重要性③日本の思想の流れを理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。</p> <p>6・保育者と制度①保育者の制度的地位 我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所・学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。</p> <p>7・保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園免許取得の要件を確認し、保育士資格、幼稚園教諭免許 (1種・2種・専修) の資格、免許の取得方法、学習内容、学習過程、習得すべき専門的能力に内容を理解する。</p> <p>8・幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 学校教育法・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある教育の基本、ねらい及び内容をまとめ、教師に必要な資質・能力・技術を理解する。</p> <p>9・保育士 (保育所保育士・施設保育士・児童福祉施設など) に求められる能力と職務概要 保育所保育指針に記載されている保育の目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質・能力・技術を理解する。</p> <p>10・保育者の役割と専門性①保育者としての望ましい資質 保育の専門家としてどのような保育の場であっても共通に必要なとされる人間的素養 (感性・判断力・応用力・共感性など)、専門的知識、専門的態度、実践技術などを学ぶ。</p> <p>11・保育者に求められる専門性②保護者支援 保護者支援のために必要とされる態度・知識・技能をまとめる。</p> <p>12・期待される保育者①成長する保育者 保育における自己反省、カンファレンス、チームで行う保育、第三者評価など保育者自身の向上のための方法を理解する。</p> <p>13・期待される保育者②社会のニーズへの対応 保育ニーズの現状の理解と解決の方向 (ライフワーク・保育の質向上・専門機関との連携・保育制度の改正等) について考察する</p> <p>14・保育者の職務と倫理 全国保育士倫理綱領の内容理解と求められる倫理観を理解する</p> <p>15・まとめ「これからの保育者の役割と必要となる資質・能力」</p> | | | |

[使用テキスト]

「保育者論」(建帛社)

「保育所保育指針」(厚生労働省)

「幼稚園教育要領」(文部科学省)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っていること